

野菜畑作生産情報 第4号

平成28年7月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎大豆ほ場の排水対策を徹底しましょう！
◎ながいもの追肥は、新しいもの長さを確認して適期に行いましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ア 生育は良好である。
- イ 食葉性害虫の発生がみられる。

表-1 大豆の生育状況 (7月11日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農林総合研究所 (黒石市)	本年 (平年差・比)	5/25 (±0日)	6/1 (早3日)	42.8 (110%)	22.0 (105%)	5.7 (-0.2)	1.6 (0.4)
	平年	5/25	6/4	38.9	21.0	5.9	1.2
	前年	5/25	6/9	32.3	16.0	4.3	0.5
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	5/15 (早1日)	5/22 (早4日)	60.9 (130%)	36.3 (146%)	8.7 (1.6)	2.3 (0.6)
	平年	5/16	5/26	46.9	24.8	7.1	1.7
	前年	5/15	5/25	42.8	22.8	6.8	1.1

- 注) ①品種：おおすず。
②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの成績。
③平年値は、農林総合研究所が過去11年間、野菜研究所が過去9年間の平均値。

(2) 今後の管理

- ア 排水対策
長雨等で滞水しないよう、明きよを設置するなどの排水対策を徹底する。
- イ 病害虫防除
食葉性害虫、アブラムシ類、べと病の防除に努める。
- ウ 開花期のかん水
開花期(7月末～8月始め頃)にはほ場が乾燥し、長期間降雨が見込めないときは、着莢促進のため畦間かん水を行う。畦間かん水は短時間で行い、全体に水が行き渡ったら速やかに排水する。ただし、排水の悪いほ場では実施しない。
- エ 追肥
登熟期間の気温が高く、追肥の効果が期待できる津軽地域では、開花期に窒素成分で10aあたり5～8kg追肥する。ただし、生育が過繁茂で倒伏のおそれがある場合は、追肥を行わない。

野 菜

(根菜類)

1 ながいも

(1) 生育状況

ア 萌芽は平年より早く、地上部、地下部の生育とも平年を上回っている。

イ 病害虫は、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生が見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (7月11日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	い も 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 1日早	6/26 3日早	176.8 (142%)	34.0 (137%)	12.6 (125%)	5.3 (126%)	7.5 (104%)
	平年	5/26	6/29	124.9	24.8	10.1	4.2	7.2
	前年	5/25	6/25	113.4	24.4	11.1	4.2	7.1
五 戸 町	本年 (平年比)	5/ 6 8日早	6/10 7日早	— (—)	— (—)	21.0 (124%)	10.8 (124%)	9.0 (113%)
	平年	5/14	6/17	—	—	16.9	8.7	8.0
	前年	5/ 1	6/ 8	—	—	23.7	12.2	12.0
東 北 町 (野田頭)	本年 (平年比)	5/12 5日早	5/30 13日早	— (—)	— (—)	18.5 (167%)	9.3 (233%)	8.9 (127%)
	平年	5/17	6/12	—	—	11.1	4.0	7.0
	前年	5/10	5/30	—	—	18.3	7.6	9.0

注) ①平年：野菜研は平成19～27年の9か年の平均値。

五戸町は平成14～27年の14か年の平均値。

東北町は平成17～27年の11か年の平均値。

②種子：野菜研は園試系6の2年子(100g)頂芽切除。

五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除。

東北町は庄司系の1年子(70～90g)頂芽付。

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)。

東北町は畦幅110cm×株間23cm(3,952株/10a)。

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

(2) 今後の管理

ア 追肥

- ① 早植栽培（頂芽付1年子、4月下旬～5月上旬植付け）
 - ・ 第2回目、第3回目の追肥は、第1回目からおおむね12～14日おきを目安に行う。
 - ・ 追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも10a当たり成分量5kgを基準とする。
- ② 普通栽培（頂芽切除、5月下旬～6月上旬植付け）
 - ・ 第1回目の追肥時期は、子いもでは植付け後45～55日頃、切りいもでは植付け後55～65日頃、つる長が200～220cmで主づるの先端がネットの8分目から頂部に達し、新しいも長が10～15cmとなった頃を目安とする。
 - ・ 第2回目、第3回目の追肥は、第1回目からおおむね10日おきを目安に行う。
 - ・ 追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも10a当たり成分量5kgを基準とし、生育が旺盛な場合には追肥量を減らす。

表－3 「早植栽培」、「普通栽培」の追肥

	追肥回数	時期 (月/旬)	1回当たりの 追肥量 (窒素量kg/10a)	追肥間隔・回数	備考
早植栽培	2回目	7/中～7/下	5	12～14日おきに3回	遅くとも8月20日までに終了する。
	3回目	8/上～8/中	5		
普通栽培	1回目	7/中	5	概ね10日おきに3回	
	2回目	7/下～8/上	5		
	3回目	8/上～8/中	5		

イ 病虫害防除

- ・ 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 採種ほ場ではウイルス病の伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

ウ 風水害対策

- ・ 台風などに備え、ネットや支柱の補強、降雨後の停滞水の排水対策を徹底する。
- ・ 植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

2 ばれいしょ

(1) 生育状況

- ア 生育は順調で、いも重は平年を上回っている。
- イ 病虫害は、疫病の発生が見られる。

表－4 ばれいしょの生育状況（7月11日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草 丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三 沢 市 (三 沢)	本年	3/21	4/25	5/15	5/28	79.1	4,790	486
	(平年比)	21日早	12日早	17日早	15日早	(90%)	(128%)	(145%)
	平年	4/11	5/7	6/1	6/12	87.6	3,754	335
	前年	3/29	4/28	5/18	6/1	82.1	5,091	476

- 注) ①平年：平成16～19年、平成21～24年、平成26～27年の10か年の平均値。
 ②萌芽期の平年：平成16～17年、平成21～24年、平成26～27年の8か年の平均値。
 ③品種：メイクイン
 ④作型：マルチ栽培

(2) 今後の管理

ア 収穫

- ・ 収穫は、茎葉が黄変し、枯れ上がってから10日後くらいに行う。
- ・ 掘り取ったものは、速やかに風通しの良い冷暗所に収納し、高く積まないで広げておく。
- ・ 早掘栽培では、収穫の5～7日前に茎葉の刈取り、又は抜取りを行い、表皮をコルク化させてから収穫する。

イ 病害防除

収穫まで期間があるほ場では疫病の防除を行う。曇雨天が続く場合には、疫病が急激に増加するため、農薬散布の間隔を7～10日おきに降雨の合間をぬって予防防除する。

3 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 生育は概ね順調で、草丈は平年を上回っている。
- イ 病害虫は、アブラムシ類の発生が見られる。

表－5 ごぼうの生育状況（7月11日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 (三 沢)	本年	4/24	93.1	3.6
	(平年比)	4日早	(149%)	(92%)
	平年	4/28	62.4	3.9
	前年	4/19	65.7	3.4

注) ①平年：平成18～27年の10か年の平均値。
②品種：柳川理想

(2) 今後の管理

ア 病害虫防除

黒斑細菌病、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

イ 追肥

追肥を予定している場合は、生育を見ながら適切に行う。

(果菜類)

4 夏秋トマト (雨よけ栽培)

(1) 生育状況

- ア 生育は、定植後順調であったが、6月の日照不足により緩慢となり、平年並からやや遅れている。
- イ 着色がやや遅れており、現在第2花房の収穫中である。
- ウ 着果負担による草勢の低下や中位葉の葉先枯れが見られる。
- エ 病害虫は、灰色かび病の発生が多い。

表-6 トマトの生育状況 (7月11日現在)

場 所	年次	定植期 (月日)	1 段花房		3 段花房		5 段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 (金木町)	本年 (平比)	5/ 1 4日遅	5/12 1日遅	3.5 (109%)	5/27 7日早	2.4 (73%)	6/11 10日早	1.7 (61%)
	平年	5/ 5	5/11	3.2	6/ 3	3.3	6/21	2.8
	前年	5/ 5	5/ 5	3.0	5/26	3.9	6/10	2.6
三戸町 (斗 内)	本年 (平比)	5/22 5日遅	6/11 15日遅	3.6 (103%)	6/28 12日遅	— (—)	—	— (—)
	平年	5/17	5/27	3.5	6/16	3.3	—	—
	前年	5/18	5/31	2.9	6/21	3.6	—	—

注) ①平年：五所川原市は平成16～27年までの12か年の平均値。

三戸町は平成20～27年の8か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト (台木：Bバリア) (前年に同じ)。

三戸町はりんか409 (自根) (前年に同じ)。

③五所川原市の生育観測までは、6月下旬に5段花房の上で心止めし、直下の側枝に更新している。

④三戸町の生育観測までは、第1花房の着果節位が7.9枚で、過去3か年の平均より1.9枚多い。

(2) 今後の管理

ア 追肥・かん水

- ・ 追肥及びかん水は、水分要求量が高くなる午前8～9時頃に行う。
- ・ 1回当たりの追肥量は、液肥の場合10a当たり窒素成分で0.5kgを目安とし、1～3日おきぐらいにこまめに行う。
- ・ かん水量は、1株当たり1.5リットルを基準に天候を見ながら毎日～3日おきで行うが、予想最高気温が28℃以上の日は、水分要求量が高いので1株当たり2.0リットルとする。
- ・ 支柱誘引やUターン誘引で無摘葉とする場合は、生育が進むにつれて葉の繁茂量が多くなるので、かん水と追肥をそれぞれ慣行より1～2割程度増やす。
- ・ 高温が続くと、着果不良が発生したり、裂果しやすい果実ができるので、通路にかん水する。

ただし、土壌の乾燥が著しい場合に大量に通路かん水すると軟果が発生するので、最初は深さ1～2cmまで湿る程度にかん水し、2～3日経過してから深さ約5cmまで湿る程度にかん水する。

イ 温度管理

ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。

ウ 病害虫防除

- ・ 灰色かび病、葉かび病防除を主体に計画的に薬剤散布を行う。ハウス内の湿度が高かったり、草勢が低下すると、これらの病害が蔓延しやすくなるので、次の対策

を行う。

- ①換気を行う
- ②通路にマルチを敷く
- ③株元の通風を良くするため、収穫が終了した果房の下葉を摘葉する
- ④摘果、誘引、追肥などの作業を適期に行い、草勢維持に努める。
- ・ 農薬による防除は、薬剤耐性菌が出現しないよう、作用性の異なる薬剤を組み合わせ、ローテーション散布を行う。
- ・ 今後、アザミウマ類、タバコガ類の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

5 メロン（雨よけ栽培）

(1) 生育状況

- ア 4月下旬～5月上旬定植のトンネル栽培の生育は概ね順調であるが、開花期が日照不足だったため、着果節位にバラツキが見られる。
- イ 病虫害は、うどんこ病、斑点細菌病が散見される。

表-7 メロンの生育状況（7月11日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	主づる 長 (cm)	主づる の葉数 (枚)	着果期 (月日)
つがる市 木造	本年	5/ 7	207.6	25.5	6/17
	前年	5/ 6	228.5	25.3	6/16
	前々年	5/ 8	212.2	23.6	6/20

注) ①平年：前年から担当農家を変更したため、平年値はない。
②品種：タカミ

(2) 今後の管理

ア 萎れ対策

遮光資材を活用し、高温による萎れや果実の日焼けを防ぐ。

イ 適期収穫

- ・ 収穫は、着果後の日数や外観、試し切りによる糖度・肉質の状況などから総合的に判断する。
- ・ 収穫が遅れると発酵果や裂果が発生するので、十分注意する。また、収穫は果温が低い朝夕に行う。

ウ 病害防除

やむを得ず連作した畑では、雨天が続くとつる枯病が発生しやすいので、防除を徹底する。

(葉茎菜類)

6 ねぎ

(1) 生育状況

- ア 生育は順調で、平年を上回っている。
- イ 3月中旬に定植した八戸市のほ場では、平年より14日早い7月中旬に、収穫期に達している。
- ウ 病害虫では、べと病、さび病、アザミウマ類、ネギハモグリバエ、ネギコガの発生が見られる。

表-8 ねぎの生育状況 (7月11日現在)

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)	収穫期 (月日)
八 戸 市 是 川	本年	1/10	3/18	112.5	22.0	7/11
	(平年比)	7日早	10日早	(114%)	(107%)	14日早
	平年	1/17	3/28	98.4	20.5	7/25
	前年	12/29	3/20	102.1	24.3	7/21
十 和 田 市 羽 立	本年	2/26	4/20	82.4	17.4	—
	(平年比)	8日遅	11日早	(113%)	(112%)	—
	平年	2/18	5/ 1	72.6	15.6	9/24
	前年	3/11	4/29	74.1	14.8	9/24

注) ①平年：八戸市は平成16～27年の12か年の平均値。
 十和田市は平成17～27年の11か年の平均値。
 ①品種：夏扇パワー

(2) 今後の管理

- ア 病害虫防除
 - べと病、黒斑病等の発生が懸念されるので、予防防除に努める。
- イ 培土・追肥
 - ・ 生育の進み具合に応じた培土や追肥を行う。
 - ・ 最終培土は、軟白に要する日数を計算し、収穫予定日から逆算して計画的に行う。
 また、軟白部のぼけ防止のため、収穫の10日前頃には手作業による仕上げ培土を行う。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめに取る！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！

連絡先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
 県庁内線 5078
 直 通 017-734-9481